

ジャック・アタリ著「21世紀事典」産業図書 1999年6月30日刊を読む

## 1. 識字教育(ALPHABETISATION アルファベティゼーション)

- (1) これはもっとも偉大な挑戦、第1の権利、もっとも高価な投資である。地球上の住人すべてに読み書きを教えるのは依然として不可能であろう。今日以上に、この基本的な知識を欠いた人たちは社会から除外され、社会で活動し、仕事を見つけ、ものを知り、権利を行使することがより難しくなる。
- (2) 世界の識字教育は、過去30年間でもっとも成功したものの1つである。1970年から1995年の間に、成人で読み書きのできない人の割合は、57%から30%へ低下した。とくに東アジアとラテン・アメリカさらにアラブ世界で際立っている。
- (3) しかしなすべきことは多い。なによりこの運動の推進役である政府や統計が伝える数字はすべて水増しされていて偽りである(今日識字教育が必要な人は少なくとも15億人はおり、その3分の2が女性である)。さらにこの数はたえず増えていて、これから30年後には倍にまで増加する危険がある。南アジアでは成人の半分が読み書きができず、その4分の1は学校に行ったことがなく、残りの4分の3は小学校教育を終えていない。また識字教育は「南」に固有の問題ではなく、また勉強の機会のなかった人びとの問題だけでもない。調査によれば、アメリカの成人の40%は12年間の教育を受けているが、「ニューヨーク・タイムス」の記事を読むことができず、あるいはバスの道順を理解することができない。
- (4) 識字教育は将来にとってもっとも重要な事業である。文字を読めることは、犯罪、狂信、人口超過に対する闘いの欠かせない条件となる。それは同時にどんな簡単な職業であっても、雇用の条件となる。読む能力がなくては、社会的、経済的、あるいは共同生活に参加できず、あまつさえ民主的な行為や娯楽に加わることができなくなる。なぜなら映像の社会は同時に文字社会でもあるからだ。
- (5) ところで読み書きの習得を自動化することは難しいだろう。予測されるテクノロジーの発展によっても、読むことを学びそれを使うまでには、子ども時代の数年を必要とするだろう。識字教育はまた地球の資源の一部を使うことになる。概算によれば、識字教育の現在の水準を維持するだけでも、これから2050年までに20億人に教えなければならない。これを実行するには、教師の数と費用を3倍(0.5兆から1.5兆ドルへ)にする必要がある。それとももっとも貧しい社会での女性の地位を革命的に高め、無報酬でこの責任ある仕事を任せるかである。「南」の大国の国際機関で、この大仕事を引きうける準備を真剣に行っているところはまだどこもない。だが次の10年間で平和に推移するか、激動の時代となるかは、この分野での成否に大きくかかっている。

P16 ~ 17

### [コメント]

「ことば」は力。言語力の意味、重要さがよく理解できるジャック・アタリ氏による「識字教育」の「定義」。

## 2. 文明(CIVILISATION シヴィリザシオン)

(1) 文明——野蛮の反対——は、人間が保持すべき大切な宝であり続けるだろう。

諸文明——宗教、言語、生き方、歴史、制度を中心にした 1 つの社会の文化的アイデンティティを確認させる価値の全体——は、次第に諸価値の巨大なパズル(組み合わせ)のなかに溶け込み、一体化していくだろう。

(2) こうした基本的定義を認めるなら、今日では 6 つないし 9 つの主要な文明が存在する。中国、日本、インド、アフリカ、イスラム、西洋文明である。そして西洋文明はさらに下位分類として、ヨーロッパ、ロシア、アメリカ、ラテン・アメリカに分けることができる。現存するこれらの文明はさらに細分化され、互いに入り交じり、あるいは混合しており、すべてはやがて世界的な市場という文明に融合していくという仮説が信じられるほどである。

(3) しかし市場のグローバル化と消費というモデルは、文化、言語、宗教を同一化することはないだろう。人類は絶えず改革される西洋モデルや、混合の方向ではなく、様々な文明の部分部分の組み合わせの方向へ進んでいくだろう。これこそがレゴ文明である。

(4) 別の見方をする人々は、あらゆる文明が混沌の中で終わりを告げると予想する。また別の人は「文明の衝突」が起こるといふ。彼らによれば、文明は幾何学模様のような衝突を起こすといふのである。

(5) ローマ帝国末期のように、周辺地域が中央に対して次第に反乱を起こす。つまり他の地域がこぞって西洋に反逆する事態はあり得る。しかしそれ以上に互いに似た文明同士の間で衝突が起こる危険性の方が、はるかに大きいのではないだろうか。

(6) 別の文明の価値を受入れ、それを同化することを知らぬ文明ほど長続きする。そうした文明は躓いても自滅せず、袋小路を克服することができるほど柔軟で、恐怖の記憶を保持しているほど複雑な性格を有し、内なる夢を養うことを決して放棄することはない。

P62 ~ 63

### [ コメント ]

日本自体が文明であることを日本人の何人が認識しているだろうか。「宗教、言語、生き方、歴史、制度を中心にした 1 つの社会の文化的アイデンティティを確認させる価値の全体」とのアタリ氏の文明の「定義」を日本人はもっと大切にしたいと思う。

## 3. 日本(JAPON ジャポン)

(1) 21 世紀のはじめの 3 分の 1 における完全な敗者である。破滅的な人口問題の動向、可動性がないこと、変革がほとんどみられないこと、産業と研究開発に情報工学、生物工学、航空学が欠如していることなどが問題だ。日本は外に向かって大きく扉を開かなければ、没落を避けることはできない。

(2) 未来学者が、こうした問題でこれほど誤った発言をすることも珍しいが、1975 年の動向調査は、日本の 1 人当たりの所得は、1985 年にアメリカを追い抜くと予測した。今日それはその 83% に過ぎない。現在の成長率でいくと、もっとも早い場合で、2005 年にしか追いつくことはできない。それさえ達成できないこともありうる。

(3) 日本人は今日、世界最高の平均寿命を記録しているが(男 77 歳、女 83 歳)、出生率は最低(1.5)。出生数も最低(1000 人に 10 人)である。日本は老化し、発育不全にならざるをえない。

人口は 2025 年で 1 億 2500 万人以上にはならない。出生率が回復しないかぎり、その後人口は減少に向かう。2025 年には 2 人の社会保険加入者に対して、年金受給者 1 人の割合になる。現在は 4 人に 1 人である。年金の財政はきわめて厳しいものになる。2020 年には、65 歳以上の人口が全人口の 25%になり、医療保険の支出は、国民所得の 30%を超える。医療保険と年金の現在の水準を維持するためには、保険料の義務的な徴収を、国民所得の 37%から 50%以上に引き上げなければならない。このような極端な事態を避けるためには、女性と外国人の労働市場への大量の参入を認める必要がある。

(4)日本は世界中から集める黒字を、アメリカが長期にわたって使うことを認めてゆくわけにはいかない。

日本の民主主義はまだ成熟したものではなく、大方のところ腐敗した党派によって支配されており、没落を避けるためには、他国の思想、文化、産業に開放的になる以外、ほかの道はない。

(5)そうはいつでも切り札がないわけではない。日本はミニディスクからナノテクノロジー(極小技術)にいたる、第一級の未来技術をいくつか手中にしている。また莫大な金融資産を保有している。国民はよく教育されているし、何十年のうちには、人口動向を変えることも可能だ。

(6)いずれにせよ日本には危機が迫っている。しかし日本は危機に立ち向かうにあたって、アジアの友好国の助けを当てにすることはできない。サムライの孤独だ……。それゆえ力を尽くして道を切り開いて行かざるをえない。もしアメリカが依然として守ってくれるのであれば、アメリカと組み、その力を借りて切り抜けて行くことになるだろう。しかしアメリカが手を引くことになるとすると、日本は核兵器を保有する方向に向かうだろう。そうすれば中国との対決が、避けられないものになるだろう。

(7)さらにその先、もし日本と中国が、ちょうどフランスとドイツが 20 世紀後半に実現したように、過去の憎しみを克服することに成功すれば、中国は日本の最良の同盟国になるだろう。2 つの国が力を合わせれば、アジアを 1 つの大陸のように結び付けることもできよう。当面それには何者も逆らうことはないだろう。

P184 ~ 185

#### [ コメント ]

1998 年に書かれたこの文章を、14 年後の 2012 年に読む日本人はつらいものがある。日本人には危機を正確に認識する力がないのか、危機を克服する力がないのか。

- 2012 年 4 月 25 日 林 明夫記 -